

教 職 課 程

·

博 物 館 課 程

科目 教育原理(博物館課程含む) (美術)

担当 松野 修

回答した学生 54 名

受講登録者 77 名

●受講した学生についての質問

- 1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		1
5	100%	13
4	90%くらい	26
3	80%くらい	9
2	70%くらい	6
1	60%以下	0
	無回答	0
小計		54

設問		2	3
5	強くそう思う	20	25
4	ややそう思う	18	20
3	どちらともいえない	13	3
2	あまりそう思わない	2	3
1	まったくそう思わない	1	3
	無回答	0	0
小計		54	54

●授業についての質問

- 4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。 5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		4
5	強くそう思う	8
4	ややそう思う	11
3	どちらともいえない	22
2	あまりそう思わない	8
1	まったくそう思わない	5
	無回答	0
小計		54

設問		5
5	ほぼ時間どおり	40
4	延長することが多い	5
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	5
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		54

- 6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。
7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。
8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。
10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。
11 教室・設備については適切でしたか。
12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問	6	7	8	9	10	11	12	
5	強くそう思う	43	42	43	48	38	25	39
4	ややそう思う	6	8	10	5	10	13	11
3	どちらともいえない	5	4	1	1	3	13	3
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	2	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		54	54	54	54	54	54	54

授業科目	教育原理（美術学部対象）				担当者	松野 修		
開講時期	通年	曜日	火	時限	5	アンケート様式	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技・実習

「私にとって教育とは、自由になるためのものなのかもしれません」

1 この授業のカリキュラム上の特性と授業の特徴

講義の進行にあたっては、「教育原理」という入口から入るものの、その内容としては、科学的認識にとって最も基礎的な概念や法則をとりあげ、それらの概念の教材化過程を通じて自ら教育のむつかしさとたのしさを体験できるように仕組んである。

2 アンケート結果の所見

(1) 受講した学生自身について

とはいえ、極少数ながら教職を志望する学生もいる。そのことは（少なくともこの講義の担当者にとって）たいへん望ましいのだが、残念ながら本講を教員採用試験対策講座のように期待しているふしがあった。教育学を自らあまりに狭く限定して考えしまったためである。そんな学生のうちの一人は、アンケートに次のように書いている。

「教職、学芸員の免許のためにこの授業をとりましたが、あまりにも授業内容が名称にそぐわなくて本当に残念に思いました。一年間の貴重な授業時間を無駄にした気持ちです。美術系大学生に真面目な講義は要らないと思っているのかもしれませんが、これでは教員採用試験を受けようとする学生が可哀そうです。今後はできるだけ授業の名称にそった授業がされることを願います。」

この学生の希望に沿って教員採用試験対策講座のような講義をすれば、他の学生にとってどんなことになるのか火を見るよりも明らかである。それに次のような率直な（実名の）感想もとうてい期待できまい。

「自分はもともと映像がやりたくてこの学校に入ってきました。けれど仕事に就くには社会で求められるようであれば……。映像やゲームなどの産業自体が〈虚業〉と言われがちなこともあり、特に価値や必要性について考え込むようであったと思います。〈世間の評価におびえるガリレオ〉というやつでしょう。しかし、ある時点で表現することができなくなりました。何かを言う、表現するという段階で100%の賛同などは得られないのです。マイナスの評価ばかり気にして作る作品ほどつまらないものはありません。また、100%の賛同ほど気持ち悪いものはありません。しかし、いつからか私は〈おもしろいこと〉自体がわからなくなっていました。

実は私はこの授業を「なぜおもしろいのか」、「なぜ楽しい時間を過ごせるのか」と考えながら受けていました。〈モル Q〉などのように、見えないものが見えるようになっていく過程、そして私自身にもあてはまる「弱肉強食と生存競争、多様な個性の重要性についての授業もありましたね。（しかも楽しく）。

少しずつではありますが、強い否定感がほんの少しの肯定へ変わっていく感覚がありました。実技で絵本作家の方に「普通ではない感性をあえて普通のものを作ろうとしているように見える」と指摘を受けたことがあります。私にとって教育とは、自由になるためのものなのかもしれません。1年間、ありがとうございました。」

教員たるわたしが（監督庁たる文部科学省ではなく）国民たる学生に直接に責任を負って講義を担当している以上、匿名でのアンケートよりも、実名入りの感想を重要視したいと思うのは当然であろう。

(2) 授業について

最終回のテストの時間に、実名で「1年間の感想」を書いてもらったうえで、「とてもたのしかった=5」「たのしかった=4」「どちらでもなかった=3」「たのしくなかった=2」「まったくつまらなかった=1」、「とてもためになった=5」「ためになった=4」「少しはためになった=3」「あまりためにならなかった=2」「まったく時間のむだだった=1」と数字で評価してもらった。その結果は、合計72人中、

- ・たのしさ 5=47人(65%), 4=23人(32%), 3=2人(3%), 2=0, 1=0
- ・ためになった 5=50人(69%), 4=17(24%), 3=4(4%), 2=2(2%), 1=0

であった。専門科目や一般教養科目と同様に高い評価を得ているものと推測する。

3 今後の授業の工夫・改善（FD）

とはいえ「教育原理」を通年で開講するのは率直に言ってムダが多すぎるので、来年度からは半期だけの開講とする。

科目 教育原理(博物館課程含む) (音楽)

担当 松野 修

回答した学生 86 名

受講登録者 100 名

●受講した学生についての質問

- 1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

	設問	1
5	100%	14
4	90%くらい	47
3	80%くらい	21
2	70%くらい	4
1	60%以下	0
	無回答	0
	小計	86

	設問	2	3
5	強くそう思う	33	35
4	ややそう思う	33	31
3	どちらともいえない	14	13
2	あまりそう思わない	6	6
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	1
	小計	86	86

●授業についての質問

- 4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。 5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

	設問	4
5	強くそう思う	21
4	ややそう思う	21
3	どちらともいえない	36
2	あまりそう思わない	6
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
	小計	86

	設問	5
5	ほぼ時間どおり	67
4	延長することが多い	10
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	1
	無回答	0
	小計	86

- 6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。
7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。
8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。
10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。
11 教室・設備については適切でしたか。
12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

	設問	6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	60	57	56	67	55	35	46
4	ややそう思う	16	19	21	11	20	14	24
3	どちらともいえない	7	7	7	7	7	23	12
2	あまりそう思わない	3	2	1	0	3	7	3
1	まったくそう思わない	0	1	1	1	1	7	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
	小計	86	86	86	86	86	86	86

授業科目	教育原理（音楽学部対象）				担当者	松野 修		
開講時期	通年	曜日	火	時限	4	アンケート様式	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技・実習

「実名入りで毎回批判的な感想を書いていたのは、私です」

1 この授業のカリキュラム上の特性と授業の特徴

本講は本学の学生が本来その科目の学習を目的として入学してきた専門科目ではない。また学生にとって選択の余地がある一般教養科目でもない。この授業は教職免許を取得のための必須科目であって、教職の必須科目には文部科学省によって講義で扱うべき事項が定められているので、教員の恣意的な判断に基づいた講義の進行は許されていない。しかも小規模な本学においては「教育原理」の講義は、このわたしの講義以外に開講されておらず、教員免許を取得したければ、わたしの講義を履修するほか学生には選択の余地はない。そういう意味ではこの講義を本来の大学の他の講義と同列に並べて論じることが適切かどうか疑問なしとしない。加えて本講を履修する学生は教員免許の取得こそ希望しているものの、将来教職に就くことまでを希望しているものはごく少数である。このことは今更否認してもはじまらない。教職に就くことをほんとは志望としていない学生に教職科目を履修させるべきかどうかについては機会を改めて論述するが、要するにこの種の講義は学生にとって達成動機の極めて低い講義であって、将来の保険を手にするために余儀なく時間を費やすだけのものにすぎない。この点の認識があいまいなまま講義を進行すればまったく教育効果を欠く結果になりかねない。

そこで講義の進行にあたっては、「教育原理」という入口から入るものの、その内容としては科学的認識にとって最も基礎的な概念や法則をとりあげ、それらの概念の教材化過程を通じて自ら教育のむつかしさととのしさを体験できるように仕組んである。とはいえ極少数ながら教職を志望する学生もいる。そのことは（少なくともこの講義の担当者にとって）たいへん望ましいのだが、残念ながら本講を教員採用試験対策講座のように期待しているふしがあった。教育学を自らあまりに狭く限定して考えしまったためである。

2 アンケート結果の所見

(1) 受講した学生について

そんな学生のうちの一人は講義最終回の「感想」に次のように書いている。

「実名入りで毎回、批判的な感想を書いていたのは私です。これだけの人数が同じ授業を受けていれば、必ず何人かは「楽しくない」「つまらない」と思う人もいます。普通はそんなことは感想で書いたら成績下げられるとか、印象悪くなるとか考えて書かないと思います。でも先生へはその不満も迷うことなく書けました。先生は良い感想も、もちろんうれしいのですが、そういうところでの不満の感想は間違いなく本心にあることだと思うので、本当のことを書いてくれたという点で、先生は感謝しているのでしょうか。

本当に、教育原理とは関係なさそうな授業で、毎回、何かある関係性をさがしてはわからずじまいでした。最後の試験中にまで「そういうことだったのか」と思わせられました。（おしゃべりなガリレオさん）はそういうことを思って、あんな授業をされていたんですね。「たのしかった＝3」「ためになった＝4」

最後の最後になって、「ためになった」と評価している。

わたしは匿名のアンケートと実名の感想とは別物だと考えている。教員たるわたしが（監督庁たる文部科学省にではなく）国民たる学生に直接に責任を負って講義を担当している以上、匿名でのアンケートよりも実名入りの感想を重要視するのは当然である。

(2) 授業について

最終回のテストの時間に、実名で「1年間の感想」を書いてもらったうえで、「とてもたのしかった＝5」「たのしかった＝4」「どちらでもなかった＝3」「たのしくなかった＝2」「まったくつまらなかった＝1」、「とてもためになった＝5」「ためになった＝4」「少しはためになった＝3」「あまりためにならなかった＝2」「まったく時間のむだだった＝1」と数字で評価してもらった。その結果は、合計 88 人中、

・たのしさ 5＝55人 (62%)、4＝29人 (34%)、3＝4人 (5%)、2＝0、1＝0

・ためになった 5＝56人 (64%)、4＝30 (34%)、3＝2 (2%)、2＝0、1＝0

であった。学生が本来その科目の学習を目的として入学してきた専門科目や、学生にとって選択の余地がある一般教養科目と同程度の高い評価を得ているものと推測する。

科目 道徳教育指導論(美術)

担当 松野 修

回答した学生 58 名

受講登録者 60 名

●受講した学生についての質問

- 1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

	設問	1
5	100%	10
4	90%くらい	35
3	80%くらい	10
2	70%くらい	3
1	60%以下	0
	無回答	0
	小計	58

	設問	2	3
5	強くそう思う	19	23
4	ややそう思う	29	30
3	どちらともいえない	9	4
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	1	0
	無回答	0	0
	小計	58	58

●授業についての質問

- 4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。 5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

	設問	4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	23
3	どちらともいえない	22
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
	小計	58

	設問	5
5	ほぼ時間どおり	41
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	10
1	よくわからない	0
	無回答	0
	小計	58

- 6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。
7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。
8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。
10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。
11 教室・設備については適切でしたか。
12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

	設問	6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	35	31	33	42	37	23	35
4	ややそう思う	13	15	18	12	14	18	18
3	どちらともいえない	7	11	5	4	5	13	4
2	あまりそう思わない	3	1	2	0	1	3	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
	小計	58	58	58	58	58	58	58

授業科目	道徳教育指導論（美術学部対象）			担当者	松野 修		
開講時期	前期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技・実習

「自分にしかできない仕事があるって、うらやましい」

1 この授業における教育方法の特徴

毎回の講義のあと、必ず学生に実名で感想を書いてもらっている。それらの感想の中からいくつかをピックアップし、タイプ打ちし、プリントしてほとんど毎回、配布してきた。講義を聴いて自分がどう感じたか、どう考えたかだけでなく、同じ講義を受講していたほかの学生はどのように聴き、どのように考えたのかを知らせるためである。同様の方法のかつての日本の教師たちは〈綴り方教育〉の中で実践してきた。言うまでもなく教師は、感想文の選択を通じて学生・生徒に隠された意図を伝えようとする。こうした感想文・綴り方を媒介とした教育的メッセージの発信が暗黙の押しつけになるのかそれとも学生相互の共感の拡充になるのかは、そこで語られる感想文・綴り方の質によって判断されるべきである。同様に教員相互の教育的技倆の向上を図るべく本報告書においても、わたしが担当した本講義の進行とそのフィードバックの有様の適否は、そこで語られる感想文の質によって判断されなければならない。なればこれ以上の贅言は無用。学生の感想のいくつかをここで紹介するまでである。

2 学生の感想から

・「やる人が一人しかいないんだったら、200円でも私はやるなあ。1年に1回なんだし、むしろラッキーだとももっちゃう。でも毎日とか、20人も人がいるとかならイヤかも、自分にしかできない仕事があるって、うらやましい。それでは、かいさーん！」

・「『道徳教育のいやらしさとすばらしさ』を読んで、私が今まで思っていた道徳教育への思いが、ぱっと解決された気がします。わたしが今まで受けてきた道徳は、いやらしい、押しつけのものはものだったなーと思います。わたしがやるなら、押しつけは やめよっと。」

・「うさぎとカメの話そのものが意外は展開でした。そこまで考え方を広げられる話だったということに驚きました。それから、板倉さんの記述のなかで、「子どもが教育的意図を感じとってしまう」とありますが、私自身も〈良い人〉ぶった先生の言葉が好きではなかったし、絵に描いたような内容を理解しながら、その〈良い人〉を意識していたような。やっぱりほめられたいし。そういう感覚なしで、本当の人間らしい授業のような気がしました。」

・「小さい頃よく聞かされた『ウサギとカメ』の話で、ここまで深い授業ができるのはすごいと思った。道徳教育によって子どもたちが考えを洗脳することができるので、怖いのが、それは『道徳教育』というくりだけでなく、人生のさまざまなシーンにおいてもおこりうることだと思う。（わかりにくくてすみません……）。たとえば、中学校や高校での部活動では、その部活内の習慣などにより、生徒たちの考えは洗脳されることがよくあります。ボクが高校時代に入っていた部活では「部活いちばん大事であり、そのほかのことは後回し」というふうに洗脳されていた。道徳教育によって生徒にいろいろなことをさせることはいいことだと思うが、大切なのは一人ひとりが皆、しっかりと自分を持ち、周りの意見ばかりにまどわされないことではないだろうか。もちろん周りの意見を聞くことも大切だが。

・「『今ごろ、あの人はどうしているだろうか』。一生懸命、あの手、この手を使ってたくさん嫌がらせをしてきたあの人。私は「嫌がったら、相手の思うツボと思って、ずーっと平静を装っていました。本当なら参ってしまうこともたくさんおきました。が、「こんな事をする人は可哀想な人。どんな顔でやってるの？ その人の親が知ったらなんと言う？」という哀れむ気持ち、そして「自分には愛する家族と友人がいるので、全然平気♪」という、耐えられる自分に対する誇りを優越感が心に満ちていたので、正直、まったくもって平気でしたし、余裕でした。誰にも相談はしませんでしたし。今となっては、それが自信になっています。」

3 その他

学生にフィードバックした感想の中から特に上記の感想を選択してここに挙げたことについては、現今の「教員の教育的技倆の向上活動」に対するわたしの違和感を含意していることを付言する。

科目 道徳教育指導論(音楽)

担当 松野 修

回答した学生 45 名

受講登録者 56 名

●受講した学生についての質問

- 1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		1
5	100%	9
4	90%くらい	20
3	80%くらい	15
2	70%くらい	1
1	60%以下	0
	無回答	0
小計		45

設問		2	3
5	強くそう思う	24	22
4	ややそう思う	17	20
3	どちらともいえない	3	2
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		45	45

●授業についての質問

- 4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。 5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		4
5	強くそう思う	16
4	ややそう思う	17
3	どちらともいえない	8
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		45

設問		5
5	ほぼ時間どおり	23
4	延長することが多い	9
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	11
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		45

- 6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。
7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。
8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。
10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。
11 教室・設備については適切でしたか。
12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問	6	7	8	9	10	11	12
5	24	28	29	33	32	26	32
4	16	15	14	10	10	9	9
3	4	2	2	2	3	5	3
2	0	0	0	0	0	3	0
1	0	0	0	0	0	2	1
	1	0	0	0	0	0	0
小計	45	45	45	45	45	45	45

授業科目	道徳教育指導論（音楽学部対象）			担当者	松野 修		
開講時期	前期	曜日	火	時限	3	アンケート様式	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技・実習

「私の本当にしたいことは何だろう」

1 この授業における教育方法の特徴

毎回の講義のあと、必ず学生に実名で感想を書いてもらっている。それらの感想の中からいくつかをピックアップし、タイプ打ちし、プリントしてほとんど毎回、配布してきた。講義を聴いて自分がどう感じたか、どう考えたかだけでなく、同じ講義を受講していたほかの学生はどのように聴き、どのように考えたのかを知らせるためである。同様の方法のかつての日本の教師たちは、〈綴り方教育〉の中で実践してきた。言うまでもなく教師は感想文の選択を通じて学生・生徒に隠された意図を伝えようとする。こうした感想文や綴り方を媒介とした教育的メッセージの発信が暗黙の押しつけになるのか、それとも学生相互の共感の拡充になるのかは、そこで語られる感想文や綴り方の質によって判断されるべきである。同様に教員の教育的技倆の向上を図るべく本報告書においても、わたしが担当した本講義の進行とそのフィードバックの有様の適否は、そこで語られる感想文の質によって判断されなければならない。なればこれ以上の贅言は無用。学生の感想のいくつかをここで紹介するまでである。

2 学生の感想から

「この授業をうけて、「わたしたち音大生には理解できるけど……」と初めは思いました。でも、子どもの感想を見て、「その考えは違う。音大生の思い上がりだ」と思いました。子どもだろうが、大人だろうが、ちゃんと相手のことを思いやることをふだんから考えていたなら、この授業の本当に意味はわかるんですね。」

授業の内容で考えさせられたのは、「団員が、ミスがあった時のことを本人に話した」というところです。わたしは、この答えは「ミスをした本人の日頃の行い」にかかっていると思います。このばあい、岩城さんが普段真剣に取り組んでいることが団員に伝わっていたから、ミスをしたときにも不満という感情が起こらなかつたと思うのです。もし普段不真面目な人だったら、どうでしょう？ ミスをしたときに不満がおこると思うし、だからこそ、ミスをした時のことを本人に話せないと思います。最悪の事態になったときに、普段の自分の行いの善し悪しがわかるんですね。」

「授業とは少しズレているかもしれませんが、たまたま昨日から考えていることがありました。「私の本当にしたいことは何だろう」ということです。自分がどう生きたいのか、ということは年を重ねるごとにわからなくなっている気がするのです。それはたぶん、自分とは違う色々な人に出会って、その度に色々なことを感じるからでしょう。わたしはどちらかというとカメ派の人生を歩んできました。コツコツを真面目に生きることがいいことだと、どこかで無意識に思ってきたからです。でも、時々、「自分の気の向くまま、やりたいことをやってみよう」と思うのです。」

自分の意見が定まらないのは、自分に自信がないからだと思います。自信をもちたいから、周りの人の生き方を参考にしてしまう。でも、そんな毎日が嫌だなあと思い始めたのです。関係ない話でごめんなさい！」

「自分に自信を持つというのは、私は大変なことだと思います。自分の良さを認めてくれる人に出会わなければ、自信を持てないからです。将来、結婚する人は、自分の本質を認めてくれる人がいいです。高校時代、お互いの本質を認めてあげられない人とつきあって、心がボロボロになりました……。そんな経験、もういや……。」

3 その他

学生にフィードバックした感想の中から特に上記の感想を選択してここに挙げたについては、現今の「大学教員の教育的技倆の向上活動」に対するわたしの違和感を含意していることを付言する。

科目 教育心理学（美術）

担当 三宮 敦生

回答した学生 61 名

受講登録者 82 名

●受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		1
5	100%	14
4	90%くらい	22
3	80%くらい	19
2	70%くらい	6
1	60%以下	0
	無回答	0
小計		61

設問		2	3
5	強くそう思う	16	29
4	ややそう思う	23	21
3	どちらともいえない	18	8
2	あまりそう思わない	3	2
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		61	61

●授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		4
5	強くそう思う	22
4	ややそう思う	15
3	どちらともいえない	16
2	あまりそう思わない	6
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		61

設問		5
5	ほぼ時間どおり	49
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		61

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問	6	7	8	9	10	11	12
5 強くそう思う	40	31	41	41	15	24	31
4 ややそう思う	15	19	13	12	16	14	20
3 どちらともいえない	4	9	4	7	17	20	9
2 あまりそう思わない	1	1	1	0	6	1	0
1 まったくそう思わない	1	1	1	1	7	2	1
	0	0	1	0	0	0	0
小計	61	61	61	61	61	61	61

科目 教育心理学（音楽）

担当 三宮 敦生

回答した学生 83 名

受講登録者 92 名

●受講した学生についての質問

- 1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

	設問	1
5	100%	28
4	90%くらい	40
3	80%くらい	7
2	70%くらい	6
1	60%以下	2
	無回答	0
	小計	83

	設問	2	3
5	強くそう思う	38	50
4	ややそう思う	33	21
3	どちらともいえない	8	7
2	あまりそう思わない	3	4
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
	小計	83	83

●授業についての質問

- 4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。 5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

	設問	4
5	強くそう思う	33
4	ややそう思う	18
3	どちらともいえない	29
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
	小計	83

	設問	5
5	ほぼ時間どおり	74
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
	小計	83

- 6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。
7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。
8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。
10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。
11 教室・設備については適切でしたか。
12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

	設問	6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	66	54	59	60	37	27	45
4	ややそう思う	12	22	18	20	19	17	31
3	どちらともいえない	5	5	6	3	20	21	7
2	あまりそう思わない	0	2	0	0	5	11	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	2	7	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
	小計	83	83	83	83	83	83	83

授業科目	教育心理学			担当者	三宮 敦生		
開講時期	通年	曜日	火・水	時限	3/4	アンケート様式	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技・実習
1 この授業における教育方法の特徴							
<p>本授業の目標は、教育心理学の基礎である学習と発達を理解し、教育現場への応用について学ぶことである。到達目標は以下の3点である。1) 学習分野については、記憶・学習・動機づけについて詳細に説明できる。2) 発達分野については、発達の研究法、知能と人格の発達理論について説明できる。3) 教員採用試験レベルの問題が解けるようになる。</p> <p>授業形態は、オーソドックスな講義形式である。教育心理学の代表的な理論を中心に、日常的な例を多用しながら理解させることに主眼を置いている。</p>							
2 アンケート結果の所見(回答者 144 名：音楽学部と美術学部をこみにした数値である)							
(1) 受講した学生自身について							
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率 80%以上の学生は 90%であった。何人かの学生から、この授業は欠席するとわからなくなるからできるだけ出席するようにしていると聞いた。本年度の学生も熱心な受講態度であったと思われる。 ・「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」に対して、「強くそう思う」が 38%、「ややそう思う」が 39%であった。この結果は上記のことを裏付けているように思われる。 ・「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか」に対して、「強くそう思う」が 55%、「ややそう思う」が 29%であった。受講者の 84%が興味・関心の高まりを示した。 							
(2) 授業について							
<ul style="list-style-type: none"> ・「シラバスは授業の選択に役立ちましたか」に対して、「強くそう思う」が 38%、「ややそう思う」が 23%、「どちらともいえない」が 31%であった。教育心理学は教職必修の授業なのでシラバスと授業の選択との関係を問うことには疑問が残る。 ・「授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか」に対して、「ほぼ時間どおり」が 85%であった。 ・「教員の話し方、話すスピードは適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 74%、「ややそう思う」が 19%であった。話し方についての評価は高かったように思われる。 ・「板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 59%、「ややそう思う」が 28%であった。評価は決して悪くないと思われるが、黒板の狭さは気になるところである。 ・「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 69%、「ややそう思う」が 22%であった。この結果から、まずはわかりやすい授業といえるのではないだろうか。 ・「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」に対して、「強くそう思う」が 70%、「ややそう思う」が 22%であった。受講者に対し教員の熱意は十分に伝わっていたものと思われる。 ・「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に対して、「強くそう思う」が 36%、「ややそう思う」が 24%、「どちらともいえない」が 26%であった。大人数の講義形式の授業としてはこの程度の数字が限界である。 ・「教室・設備については適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 35%、「ややそう思う」が 22%、「どちらともいえない」が 28%であった。 ・「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」に対して、「強くそう思う」が 53%、「ややそう思う」が 35%であった。「強くそう思う」が半数を超したことは幸いであった。 							
(3) 自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて							
<ul style="list-style-type: none"> ・説明が分かりやすかったという声が多かった。 ・内容が興味深いという声も散見された。 							
(4) 自由記述より学生からの要望について							
<ul style="list-style-type: none"> ・テストが難しいという意見が少しあったが、試験のレベルを下げることは今のところ考えていない。 ・教室への苦情も多かったが、これは毎度のことで如何ともしがたい。 							
3 今後の授業の工夫・改善 (FD)							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は、教科書にほぼ沿って進めるので、ほぼ完成されている。後はどれだけ、新鮮なトピックを加えることができるかである。 ・前半の記憶と学習のところをいかに楽しく興味深く教えるかが自分としては課題である。 							
4 その他、意見							
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							

科目 生涯学習概論

担当 松野 修

回答した学生 28 名

受講登録者 36 名

●受講した学生についての質問

- 1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。
3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

	設問	1
5	100%	4
4	90%くらい	10
3	80%くらい	9
2	70%くらい	5
1	60%以下	0
	無回答	0
	小計	28

	設問	2	3
5	強くそう思う	8	15
4	ややそう思う	11	12
3	どちらともいえない	7	1
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	1	0
	小計	28	28

●授業についての質問

- 4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。 5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

	設問	4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	11
3	どちらともいえない	9
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
	小計	28

	設問	5
5	ほぼ時間どおり	22
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
	小計	28

- 6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。
7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。
8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。
10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。
11 教室・設備については適切でしたか。
12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

	設問	6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	20	21	23	24	18	13	20
4	ややそう思う	7	5	3	3	6	9	6
3	どちらともいえない	0	2	2	0	4	5	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	1	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	1
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
	小計	28	28	28	28	28	28	28

授業科目	生涯学習論				担当者	松野 修		
開講時期	後期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技・実習

「授業外でも 他の人といっしょに楽しみました」

1 この授業における教育方法の特徴

毎回の講義のあと、必ず学生に実名で感想を書いてもらっている。それらの感想の中からいくつかをピックアップし、タイプ打ちし、プリントしてほとんど毎回、配布してきた。講義を聴いて自分がどう感じたか、どう考えたかだけでなく、同じ講義を受講していたほかの学生はどのように聴き、どのように考えたのかを知らせるためである。同様の方法のかつての日本の教師たちは、〈綴り方教育〉の中で実践してきた。言うまでもなく教師は、感想文の選択を通じて学生・生徒に隠された意図を伝えようとする。こうした感想文・綴り方を媒介とした教育的メッセージの発信が暗黙の押しつけになるのかそれとも学生相互の共感の拡充になるのかは、そこで語られる感想文・綴り方の質によって判断されるべきである。同様に教員相互の教育的技倆の向上を図るべく本報告書においても、わたしが担当した本講義の進行とそのフィードバックの有様の適否は、そこで語られる感想文の質によって判断されなければならない。なればこれ以上の贅言は無用。学生の感想のいくつかをここで紹介するまでである。

2 学生の感想から

「光と虫めがね」で、特に印象に残っているのは、野外にカメラオブスキュラのテントが設置されたときでした。授業中に楽しかったのもありますが、授業外でも他の人といっしょに楽しみました。また仕組みについて解説したり、フェルメールの部屋について話したりと、この授業を受けていない人とも、楽しさなどを共有できたという実感があります。」

「もともと写真に興味があり、その延長で光、カメラ、レンズについて知りたいと思ってたので、思いがけず、たのしくてためになる授業でした。カメラオブスキュラの体験がとても印象的で、世界を目で見ることと、レンズでとらえること、印画紙に定着させることの差異をぼんやりながら感じとれました。写真の撮り方、味方が少し変わった気がします。「光」はやはり不思議だ。熱だったり、波だったり……」

「光と虫めがね 特に印象に残ったこと……何だろうなあ。この授業では普段生活している中では気付かない、つねに意外なところに焦点をあててたくさん発見があった。自然ってすごいな。見方を変えればもっとたくさんのが見えてくるし、それを発見した人もすごい。昔の娯楽が今の時代でもこんなに楽しいと感じられるなんて、人間って変わっていないな。技術は進歩していつてるけれど。科学と聞くとなんだか遠い話のように思うけれど、この授業で、けっこう身近にあるもんなんだと思った。」

「カメラ・オブスキュラ！ 思った以上の楽しさでした！ 学内のバルザックの銅像を写したときの3D感がすごかった。あと真っ暗な部屋の中で先生の姿形が見えないのに、声だけしてたのも個人的におもしろかったです。一眼レフのカメラを持っていますが、今日、その仕組みがよくわかったのでよかったです。」

「カメラ・オブスキュラで写真画像が撮れるなんて……！ と始終、大興奮でした。知識としての情報と、実際にそれを行動に移してみるのでは全然理解度が違うということを実感しました。そして何よりも楽しい！！ この授業を受講してよかったです。」

「今日は凹面鏡を使ってクモを3Dにして見たり、鏡を使った貯金箱を見ました。凹面鏡を使った実験で、自分の指が浮き上がって見えたのには驚きました。みんなが撮った写真は芸大だけあって、アーティスティックでしたが、最後の方の小学生の写真も、かっこよかったです。」

「フックの絵が得意なのと、科学が得意なのとが合わさって、おもしろいアート作品になってしまったなんて、おもしろいですね。」

「今日、いちばん驚いたのは池の水です。 こういうのがアメンボのような動きをしていました。これがアメンボですか？ ドラえもんの話に〈スモールライト〉なるものがありますが、あんなものが実在して、小さくされた日にゃ、どっと疲れて帰ることに違いないと思いました。」

